

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-43

学校名・団体名	海津市立海西小学校
HPアドレス	http://school.city.kaizu.lg.jp/~kaisai-sho/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子ども狂言事業を通じた表現力や人とかかわる力の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の治水の歩み、自然との共生の様子を学び、人々が古来より大切に守り伝えてきた郷土の良さを劇づくりによって発信することで、郷土を知りさらに大切にしていこうとする心情を育む。・伝統芸能に触れ、その良さを理解し、児童自らその創作活動に取り組む体験を通じて、表現する力や人と関わる力（コミュニケーション力）の育成を図る。	

活動の概要

狂言体験学習は、高学年が年度の後半（9月から2月）に集中的に行っています。また、この体験学習の基礎となる知識や経験を得るための郷土の歩みや文化、治水等の学習は、低学年から順次様々な学習の時間を利用して体系的に進めています。本格的には今年度からスタートしたこの体験学習の成果を、数年後にはこの小学校の伝統の一つとなり、高学年が次の学年に引き継いでいく「大切な心」として、舞台発表等の形で継承できていたらよいと考えています。

1 狂言体験学習

- ① 狂言（脚本・演技）づくり～オリジナル狂言脚本『狐鬼灯(きつねほおずき)』をもとに、実際に子どもたちが狂言を演じ、作り上げていくことで、郷土の古の人々の歩みや考えに思いをはせることができました。この脚本は、地域の題材（古来洪水に悩まされ続けた土地柄、日本有数の稲荷社である千代保稲荷、郷土に残る大蛇伝説等）を生かし、白蛇や化け狐といった「もののけ」の目を通して見た悲しくもおかしい人間の営みを内容としたものです。脚本家山川里美氏の手により原案が作られ、この一年間あまりをかけて後述の佐藤氏の指導の下、子どもたちと一緒に練り上げられ完成したものです。さらに、山川里美氏のプロデュースにより、以下の②～④の体験や指導、支援を手厚く受けることができ、子どもたちは充実した狂言体験学習をすることができました。
- ② 所作指導～昨年に引き続き狂言師佐藤友彦氏（重要無形文化財総合指定保持者 和泉流）の指導を、子どもたちは7回も受けることができました。それは、所作の基本のすり足から始まり、滑稽味を出す動作の指導に至るまで、たいへん懇切丁寧であり熱意にあふれたものでした。当初、気恥ずかしさでためらいや遠慮を見せる子どもたちが、次第に狂言の世界に引き込まれていくのを目の当たりにすることができました。



すり足による登場



狐の動き方の練習



滑稽味を出す細かなしぐさの指導



- ③ 囃し方指導～これも昨年に引き続き能楽師竹市学氏（笛方 藤田流）、能楽師船戸昭弘氏（小鼓方 幸静流）の指導を受けました。特に今年度は、補助金で購入できた能管8本を実際に使って練習し、狂言に合わせて演奏することができました。また、小鼓は海津市や森廣美氏（立野御殿萬歳）の協力を得て8張も借用することができ、実際に使って練習し、演奏することができました。当初は何の音も出すことができなかった能管や小鼓が、指導をいただく中で次第に音になりお囃子の体を成し、舞台に彩りを加えていく様に、子どもたちの表情が輝き始めていきました。



竹市氏による吹き方指導



狂言に使う二曲を練習



船戸氏による構えの指導



狂言の動きに実際に合わせる

- ④ 小道具、衣装等の製作～後藤定義氏（海津市内の狂言活動先進的取組校大江小関係者）や、山川里美氏 佐藤友彦氏をはじめとして、多くの方々の様々な協力を仰いで、舞台に必要な小道具や衣装が少しずつではあるがそろってきています。この衣装や小道具を身に付けて舞台に立つことが、子どもたちの大きな意欲につながっています。



狐の頭（頭部飾り）



白蛇の頭



補助金で購入した能管



狐の衣装

2 地域の歩みや文化の理解

狂言の体験学習を行う一方で、社会科・生活科や総合的な学習、学級の時間等を活用し、『狐鬼灯』にも登場するこの地域ならではの、古の先人の苦労や工夫、文化等を、学年や学習段階に応じながら学び、郷土の理解ひいては狂言を実際に演じる体験にも生かそうとしています。

① 治水～『輪中』と呼ばれるこの地域ならではの治水対策の知恵や苦労を知る。

低学年の地域探検から高学年の郷土の地理に至るまで段階に応じて、実際に現地を訪れて実物を見たり、地域の方々等にも詳細な話を聞いたりしながらの学習により、子どもたちは「体感」していきます。



水防倉庫を開けてもらう



「たこ糰」と呼ばれる道具 今日に残る輪中堤の役割を聞く



実際に破堤し洪水がおきた現場を訪ねる

② 伝統～今も昔も多くの参詣客が訪れる千代保稲荷社とその参道の賑わいの秘密を学ぶ。

水害の多いこの地にあって、500年以上の昔から人々を見守り心の支えとなってきた神社と、その恩恵を受けて栄えてきた周辺に暮らす人々の思いに触れることができました。



千代保稲荷で宮司さんに話を聞く



供物の油揚げを扱う人にインタビュー



参道の賑わいを知る

③ 環境～人々に恵みをもたらす水を中心とした地域の環境の実態を知る。

人々の命や財産を脅かす水は、同時に恵みをもたらす貴重なものであることを知り、その保全をめざす活動にも意識を向けています。



輪中内の水環境（水質）を調べる



機会をとらえて清掃活動も行う



上水道の水源のしくみを知る

3 成果と今後に向けて

多くの方の理解と協力、そして多大な支援を受けてこの事業は進んでいます。多くの方に様々な形で関わっていただいているありがたさを、子供たちは今、大いに感じています。そして、どちらかといえば、おとなしくて、積極的な自己表現の術をあまり知らなかった子どもたちが、少しずつではありますが変化してきているのを、我々は感じています。教室では小さな声だった子が、大きな声で舞台に立つ。背を丸めて歩いていた子が、背筋を伸ばしたすり足の所作を見せる。プロの本物の指導を受けて目を輝かせてその技を知ろうとする。これら、多くの素晴らしい姿を我々は目の当たりにしました。これらが、この子たちの将来の表現力やコミュニケーションの能力につながっていくものと信じております。まだまだ拙い歩みではありますが、来年以降も一步一步この歩みを続けていきたいと考えております。

